

平成14年春季特別展 The Dazzle of Blue Glass The Tango Culture Emerges

平成14年4月13日(土)～6月16日(日)

青いガラスの燦き

丹後王国が見えてきた



考古学セミナー

場所=1階ホール 時間=午後2時～4時[受付午後1時～]

第1回/4月21日[日]

講師: 門脇 補二 [京都橘女子大学客員教授]
「丹後王国—弥生文化の輝きをうけついで—」

第2回/5月12日[日]

講師: 和田 晴吾 [立命館大学教授]
「弥生墳丘墓から巨大古墳へ」

第3回/5月26日[日]

講師: 佐藤 晃一 [加悦町古墳公園はにわ資料館専門員]
「丹後王墓が語るもの—鉄加工と玉生産の国—」

第4回/6月9日[日]

講師: 館長 金岡 聡と学芸員
「丹後検証—日本海に出現した巨大勢力—」

*全回参加者には修了証と記念品を贈呈致します。
*本館学芸員による展示解説
=毎週日曜日と祝休日[午前11時～]

特別企画/5月6日[月・振替休日]

「もがり—古代の人の聴いた天の音—」
鈴木 昭男 [サウンド・アーティスト]

場所=1階ホール

時間=午後2時～3時[受付午後1時～]

- 開館時間/午前10時～午後5時
(入館は4時30分まで)
- 休館日/毎週月曜日
(但し4月29日[月]は開館、翌30日[火]は休館
5月6日[月]は開館、翌7日[火]は休館)
- 入館料/個人11般600円[4800円]・高大生4000円[3200円]
小中学生65歳以上・障害者手帳を持つ方は無料
(「」内は団体料金・20名以上)



- 交通 通路
- JR阪和線「倭太山」駅下車 徒歩7分
 - 南海本線「松ノ浜」駅下車 徒歩20分
 - 普通車80台・大型バス7台無料

大阪府立弥生文化博物館
Osaka Prefectural Museum of Yayoi Culture

The Dazzle of Blue Glass

The Tango Culture Emerges

青いガラスの^{きらめ}燦き 丹後王国が見えてきた

今から約2000年前、京都府北部の丹後地域において、絶大な勢力をもつ国が成立しました。この地には、ガラスを中心とする豪華な装身具や大量の鉄製品を副葬した、王と目される人物の墓があります。古代丹後の人々は、大陸との外交によって入手した鉄やガラス素材の加工、また水晶玉の生産とそれらの交易によって、傑出した地位を保持したとみられます。今回の特別展では、近年のめざましい調査成果に基づいて、後の巨大古墳の時代も含め、古代丹後の実態を検証するとともに、国々が割拠した弥生社会について考えたいと思います。



▲青いガラス玉を連ねた首飾り
(大宮町・左坂墳墓群)

主な展示品

- 大風呂南1号墓のガラス製腕輪・銅製腕輪
- 大田南5号墳・安満富山古墳の「青龍三年銘」鏡
- 日吉ヶ丘遺跡の碧玉製管玉ほか出土品一括 **初出品**
- 赤坂今井墳丘墓の頭飾り復元品 **初公開**

重要文化財96点を含む
主要700点一挙公開
期間中、一部展示替えをします。



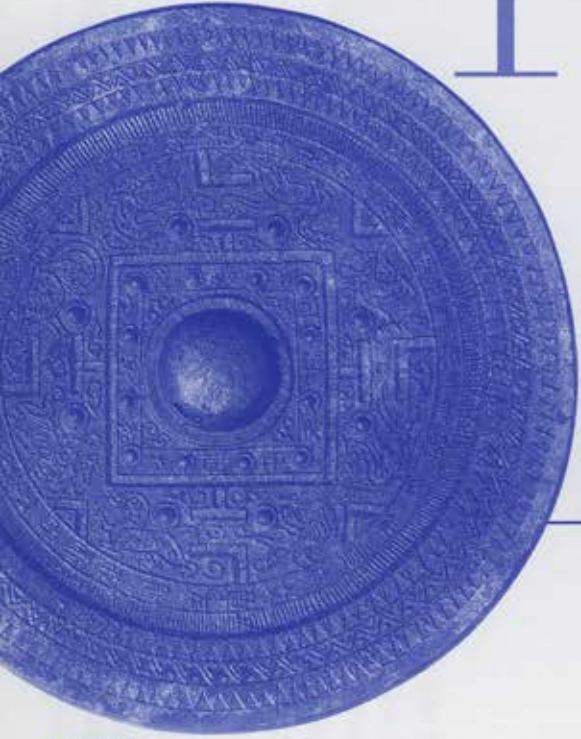
重要文化財
◀ 玉を飾ったガラスの腕輪
(若海町・大風呂南1号墓)

I 卓越した 弥生墳墓

ガラス・碧玉製の華麗な装身具、群を抜く大量の鉄製品、美しい形態をした供献土器などの副葬品から、丹後巨大勢力の実態に迫ります。



▼ 中国系の鉄刀などの鉄製品と頭飾り
(大宮町・三坂神社3号墓)



II 特色ある 大古墳

紀年銘鏡をはじめとして、日本海側に築かれた古墳の豪華な副葬品や独特の形をもつ埴輪から、大和王権成立後の丹後を位置づけます。



▲ 丹後特有の丸い埴輪をもつ円筒埴輪
(加悦町・姫子山1号墳)

重要文化財
▲ 青龍三年(235年)の銘をもつ鏡
(弥栄町・大田南5号墳)

▼ 鉄針を使い大量に生産された水晶の玉類
(弥栄町・赤貝岡遺跡)



III 暮らし・生産・交流 の世界

堅固な濠に囲まれた集落での暮らしや、荘厳な銅鐸のまつりの様子とともに、玉生産や外交の拠点となった丹後の実力を明らかにします。



重要文化財
▲ まつりに用いた荘厳な銅鐸
(野田川町・比丘尼城遺跡)